

フライウェイパートナー シップによるシギ・チドリ 類保全のための国際連携

ラムサール・ネットワーク日本 柏木 実

フライウェイ全国大会

2025/2/28

- ▶ 1946年生れ
- ▶ 1993年3月まで東京都の公立中学校で理科教員
退職の翌年
- ▶ 1994年3-4月 北西オーストラリア国際踏査に参加
(シギ・チドリ類とアジサシ類の標識調査)



自己紹介・シギ・チドリ類 / 湿地との出会い

2024(R6)年度EAAFP全国大会

- ▶ 湿地保全活動（生活は翻訳と今は年金）
- ▶ 日本湿地ネットワーク（JAWAN))（1994-2009）
 - ▶ 東京事務所→運営委員→副代表
- ▶ ラムサール・ネットワーク日本(ラムネットJ)（2009－現在）
 - ▶ 理事・共同代表（2009-2019）→理事（2019－現在）
- ▶ シギ・チドリ類保全活動



ヘラシギ特別委員会日本代表 / シギ・チドリ類作業部会
ハマシギ（日本で一番個体数の多い種）
ヘラシギ（絶滅危惧IA、全世界個体数 200番（つがい）余）



教員退職後、無給で(ムボウにも)

- ▶ **ラムサール条約第 6 回締約国会議(1996)で**
- ▶ **勧告 6.4 : 東アジア～オーストラリア地域の渡りのルート沿いの登録湿地のネットワークの構築に関する勧告
(ブリスベン・イニシアチブ : 日豪共同提案)**
- ▶ 14. 「**アジア太平洋地域水鳥保全戦略**」の実行を支援することを締約国に奨励する。
- ▶ 15. 「東アジア～オーストラリア地域における**シギ・チドリ類に関する湿地ネットワーク**」に、自国の 1 つまたはそれ以上の適切な湿地を推薦し、本ネットワークへの支援を表明することを東アジア～オーストラリア地域に含まれる締約国に促す。

ラムサール条約⇒ EAAFPのシギ・チドリ類保全

作業部会（7）

- ガンカモ類
- ツル類
- シギ・チドリ類
- 海鳥類
- CEPA
- 鳥インフルエンザ
- クロツラヘラサギ

特別委員会（10）

- モニタリング
- 黄海
- アムール川流域
- ヘラシギ
- コウライアイサ
- アカハジロ
- ホウロクシギ
- 密猟対策
- ニシハイイロペリカン
- ユース

EAAFPの作業部会と特別委員会



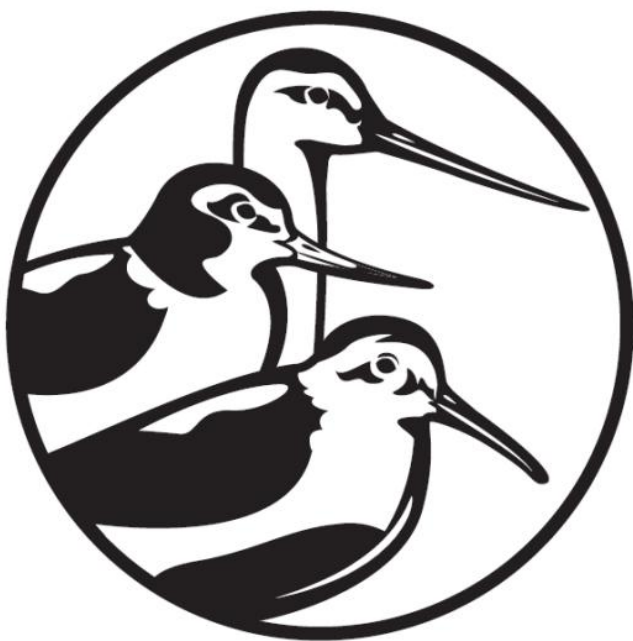
作業部会

EAAFPの作業部会と特別委員会 2

2024(R6)年度EAAFP全国大会



特別委員会



シギ・チドリ類作業部会ロゴ

シギ・チドリ類保全のため
EAAFPを利用しよう



ハマシギ乱舞：冬羽 by: Eugene Cheah



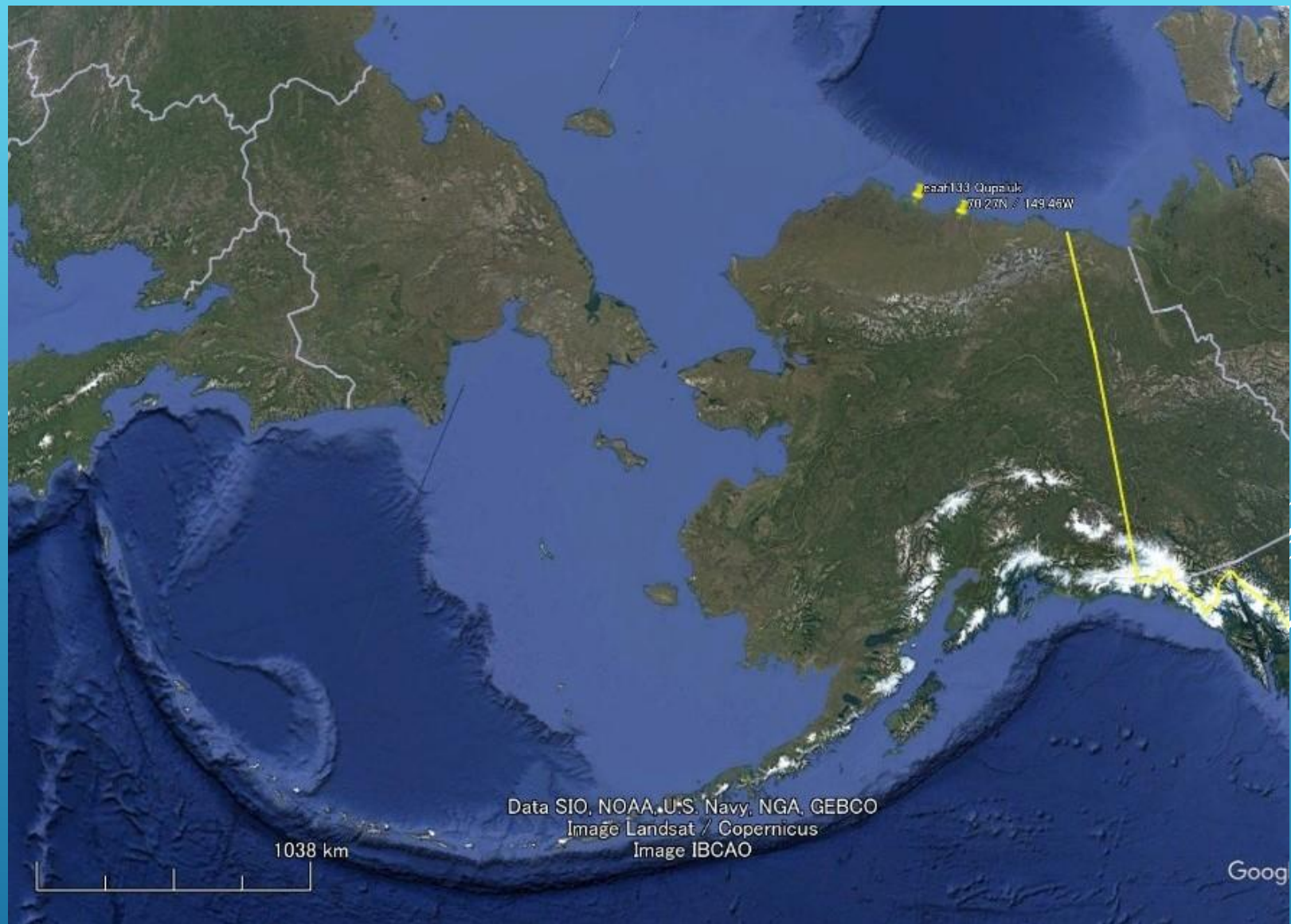
ハマシギ 夏羽 from: M.Barter

クパルクと東よかをつなぐハマシギ

- ▶ 1996年3月 ラムサールCOP6と西オーストラリアの踏査に参加、帰国直後
- ▶ 山階鳥類研究所の茂田さんから「1996年3月26日石川県高松海岸で中川富男さんがカラーフラッグとリングを付けたハマシギを観察。どこのものか分からない。調べてほしい」
- ▶ 「電子メール」でシギ・チドリ類関係者に連絡。
⇒「東アジア・オーストラリア地域では使っていない」

クパルクと東よかのつながり（1）

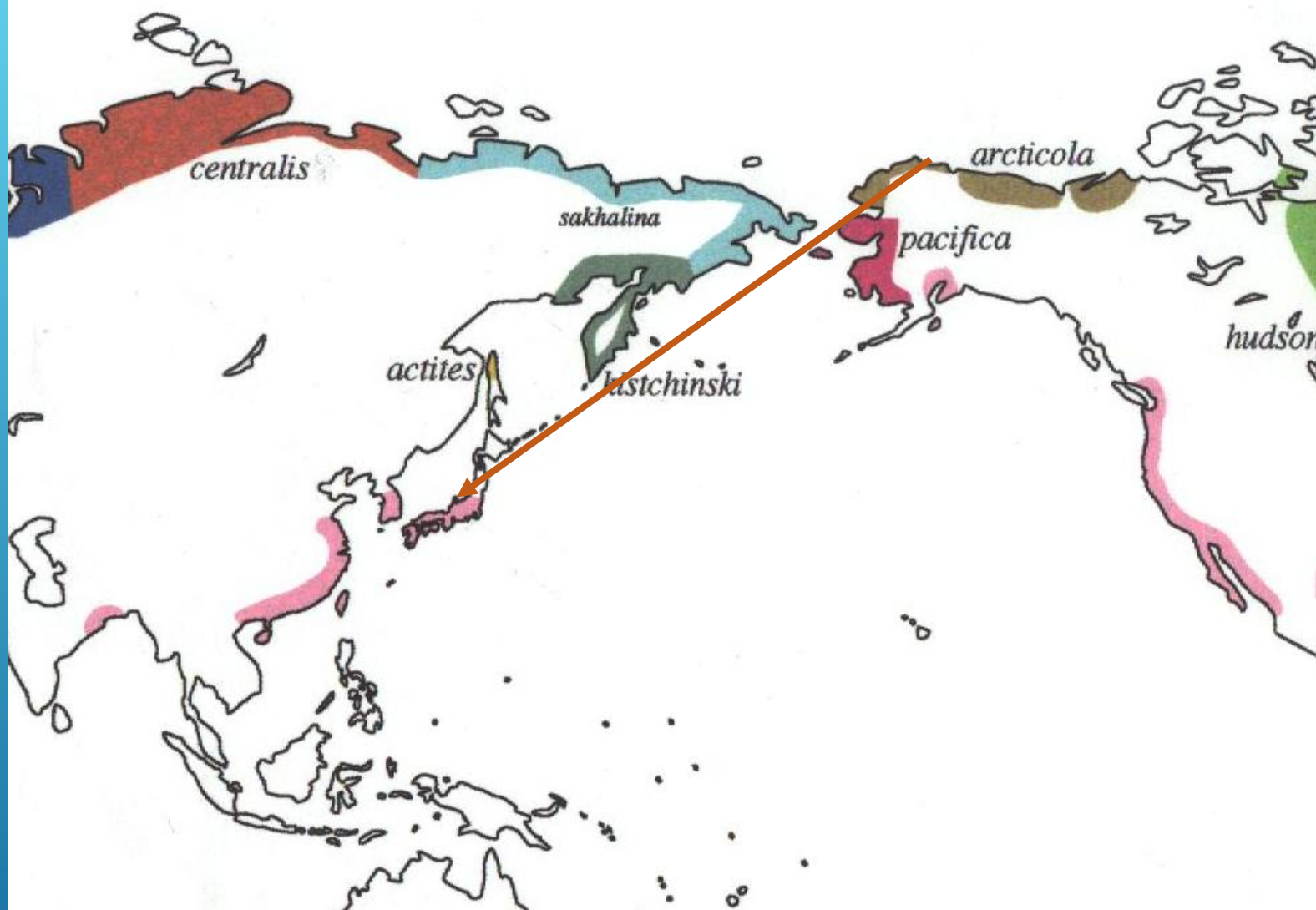
- ▶ 一週間後：アラスカの研究者から「1994年繁殖期にQupaluk Oil Fieldで標識、との返事」
- ▶ アラスカ北斜面から日本への渡りのデータとして最初の確認例



クパルクと東よかのつながり（2）

2024(R6)年度EAAFP全国大会

10
2025/2/28

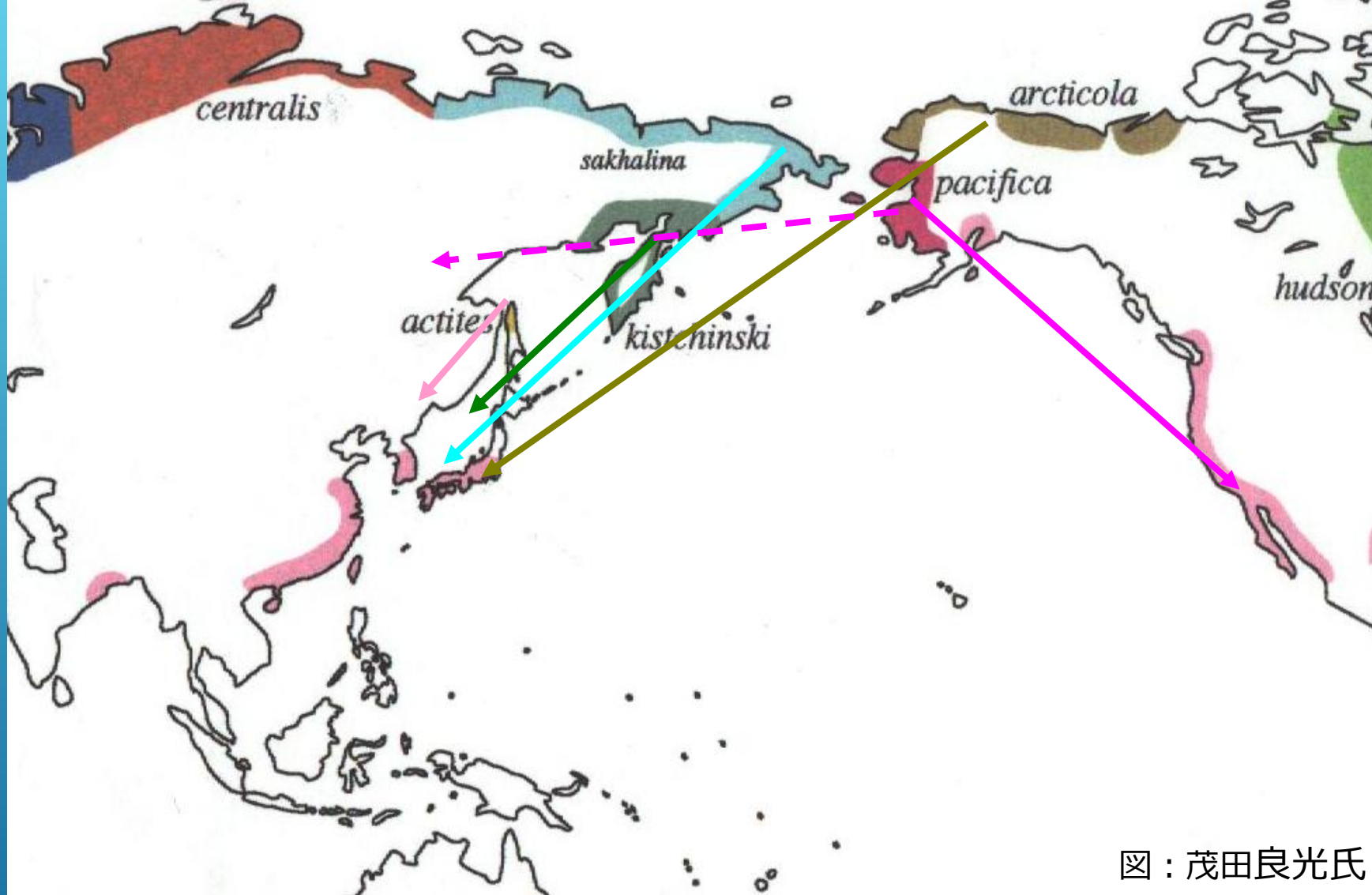


ネットワークサイト・クパルクの写真：

<https://www.flickr.com/photos/eaafp/albums/72157692801693670/>

クパルクから高松海岸

2024(R6)年度EAAFP全国大会



図：茂田良光氏

東アジアのハマシギ亜種

2024(R6)年度EAAFP全国大会

- ▶ 1999ー2004 日米ハマシギ共同調査
 - ▶ 2003 M.Barter(2003)普通種が普通であるように：ハマシギ行動計画の策定
 - ▶ 2004/9 ハマシギ保全行動計画 (WI-Oceanea))
 - ▶ その後アラスカを中心とする研究論文発表
 - ▶ 2015 東よか干潟、クパルクがライウェイネットワークサイトに
 - ▶ 2020/1 日露米小型シギ・チドリ類保全ワークショップ
- ⇒ 今日の細谷さんの報告

その後のフライウェイでのハマシギ

シギ・チドリ類 レッグフラッグ 色の割り当て

Table 4
Proposed Colour Flag Allocations for the East Asian-Australasian Flyway

Region	Colour		Name
1	Blue/Green		Alaska, US
2	Yellow/Black		Kamchatka Peninsula
3	Yellow/White		Amur River region
4	Blue		Northern Japan
5	Blue/White		Central Japan
6	Blue/Orange		Southern Japan
7	White/Orange		Korean Peninsula
8	Blue/Yellow		Dandong-Tangshan
9	Green/Orange		Yellow River Delta
10	Green/Blue		Jiangsu
11	White/Black		Shanghai-Zhejiang
12	White/Blue		Taipei-Kaohsiung
13	White/Yellow		Guangdong
14	Blue/Black		Hainan-Guangxi
15	Yellow/Green		Vietnam
16	Black/Blue		North Philippines
17	Black/White		South Philippines
18	Black/Green		Gulf of Thailand
19	Black/Yellow		Singapore, W Malaysia
20	Orange/Black		Bangladesh
21	Black/Orange		Java
22	Green/White		Papua New Guinea
23	Yellow/Orange		Southwest Australia
24	Yellow		North-west Australia
25	Yellow/Blue		Darwin region
26	Green/Yellow		Gulf of Carpentaria
27	Green/Black		Central Queensland Coast
28	Green/Green		Brisbane region
29	Orange/Green		New South Wales
30	Orange		South-east Australia
31	Orange/Blue		Tasmania
32	Orange/Yellow		South Australia
33	White/White		North Island, New Zealand
34	White/Green		South Island, New Zealand

Please note, the colours in the above table are only an indication of the true colours of the flags used in the field.

- ▶ シギ・チドリ類をはじめ渡りをする水鳥は人を含む生息地の生態系の状態を示す大切な指標
(鳥好きだけのものではない)
- ▶ 行政・研究者・NGOそして地域の団体・個人の協力が大切
- ▶ 地域の観察・保護の活動が最も重要
- ▶ 地域と地域をつなぐこと = 国際連携 = EAAFPやシギ・チドリ部会など

みんなで一緒に!!